

第2回 すくわくプログラム

透きとおる海のキャンバスで、泳ぎだす命たち



今月のすくわくプログラムは、「透明ビニールシートをキャンバスにして、水の生き物を描く」がテーマです。お部屋いっぱいに広がる透明のビニールシートは、まるで海の中にいるような幻想的な空間をつくり出しました。絵の具やマーカーを使って、子どもたち一人ひとりが思い描いた“自分だけの海の世界”をのびのびと表現。クラゲ、サメ、タコ、色とりどりの魚たちが、シートの上をいきいきと泳ぎはじめました。いつものお絵かきとはまったく違う体験に、発見と驚きがたっぷり詰まった時間となりました。

東京都のすくわくプログラムについて詳しくはこちら → <https://www.sukuwaku.metro.tokyo.lg.jp/>



4歳児クラス 光の向こうに、ほくの魚が泳いでる

「先生、ここに魚がいるよ!」「クラゲがふわふわしてるよ!」すみれ組の子どもたちは、透明なキャンバスに戸惑いながらも、少しずつ筆を走らせていきます。描いているうちに、「光が通るから、ほんとに泳いでるみたい!」と新たな気づきに大喜び。絵の具が透けて混ざり合う様子や、背景の景色が絵と重なる様子が感動しながら、絵の世界がどんどん広がっていききました。中には、「わたしの海にお友だちも入っていいよ!」と、共同制作を始める子も。「描く」ことを通じて、「見る」「気づく」「共有する」力が自然と育まれていました。



5歳児クラス この海には、やさしいサメがいるんだ

「この魚は家族で泳いでるんだよ」「ほくの海には宝物があるんだ」ひまわり組の子どもたちは、描き始める前から海の中の物語を語りはじめます。ただ写すのではなく、「どんな世界をつくりたいか」というビジョンを持って制作に取り組む姿に、5歳児らしい想像力と構成力の成長を感じました。「イルカが友だちに会いにく途中なんだ」「ここにサンゴのおうちがあるよ」と、それぞれの海に意味やストーリーが込められており、作品を通して心の中の世界があふれ出すようでした。創作後には、自分の作品をお友だちに紹介する発表会も行い、言葉で伝える力も自然と育まれました。



透明なキャンバスは、子どもたちにとって“空白の海”。だからこそ自由に、そして深く、想像の翼を広げることができたのかもしれません。これまでの絵画活動とは異なる視点や素材との出会いが、「描く」ことの面白さや、「伝える」ことの喜びを再発見するきっかけになってくれたように感じます。子どもたちの内なる海が、これからどんなふうに広がっていくのか楽しみでなりません。